

### 1 単元名

くらしをより便利に「運輸業で活用される情報通信技術」

### 2 単元のねらい

情報化した社会の様子に関心をもって意欲的に調べ、情報通信技術の活用は様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解する。

### 3 授業の構想

以下に示すのは1学期単元「米作りの盛んな庄内平野」の学習の中で、日本が抱える問題を理解した上で、これからの米づくりの在り方について提案した後のふりかえりである。

ぼくは最初、日本の米作りを守るためには生産者がイベントを開いて若い人に農家をしてもらえばいいと思っていました。でも違いました。ぼくたち消費者が何もできないわけじゃなくて、国や生産者と協力することもできます。いろいろな立場から考えることが大事だとわかりました。それから島根でも実際にしています。やっぱり大事なものは協力だったんだ。  
(児童 A)

このように、「誰が」という対象と「何をするといいか」という取組について着目しながら考えることを通して、消費者や生産者の立場、さらには行政の立場など多角的に考えてこれからの農業の発展を考える姿が見られた。本単元でも、社会的事象を多角的に考えることを大切にすることで、社会認識を深めるとともに、自分との関わりを考えながらよりよいくらしの在り方を創造する姿を目指したい。

本単元では、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について考える。今回は情報や情報通信技術を活用して発展している産業の中から、運輸業であるヤマト運輸を中心に取り上げる。わたしたちは、日常生活の様々な場面で宅配サービスを利用している。また、近年インターネットが普及し、通信販売を利用することによって宅配サービスの利用は急激に増えた。そんな中、運輸業者は情報通信技術を活用しながら宅配物を「確実に」「より早く」「より効率よく」届ける工夫をしている。また、私たち国民も情報通信技術を活用することで「いつでも」「どこからでも」自分の都合に合わせて配達依頼ができるようになってきている。本単元では情報通信技術の活用について産業と国民の2つ立場から考えることを通して、情報通信技術の活用による産業の発展と国民生活の向上を理解するとともに、よりよい利用の在り方を考え、学びを自分のくらしに生かそうとする姿を目指す。そこで、本単元を展開するにあたり次の点を大切にしていく。

#### 子どもたちにとって経験を共有できる学習対象との出会わせ方を工夫する

本単元では、初めに学級に宅配便を届けてもらう機会を設けながら、運輸業者に荷物を届けてもらった経験や送った経験を伝え合う場を設定する。共有できる生活経験を話し合う中で荷物が「確実に届く」ことに注目する。そして、依頼伝票を見ながらその理由を考えることを通して情報通信技術の活用をイメージし学習問題を見出す。また、学習と並行し学級で宅配便を送る機会を設定し、実感を伴いながら課題を追求できるようにする。

#### 多角的な視点から社会的事象の意味を考えられるような学び合いの工夫をする

ポータルポスシステムについて「何が便利になったのか」について話し合う場を設定する。その際、付箋を使い「具体的事実」と「その効果」について具体的に考えたり、立場ごとに分類したりする。情報通信技術の活用について多角的な視点から捉え、情報通信技術と産業の発展との関連や国民生活の向上についての気づきを深める姿を目指す。

#### 4 展開計画（全8時間 本時 6/8）

- 学級に届いた配達物や依頼伝票から、「荷物が確実に届く」理由を考える。（1校時）
- ヤマト運輸に見学に行き、情報通信技術の活用について調べる。（2・3校時）
- 情報通信技術の活用の場面や活用の仕方をまとめる。（4・5校時）
- 情報通信技術の活用による産業や国民生活の変化について考える。（6校時・本時）**
- 他の産業における情報通信技術の活用について調べる（7校時）
- 情報通信技術の活用における課題と自分のかかわり方についてまとめる。（8校時）

#### 5 本時の学習

##### (1) ねらい

「ポータブルposシステムの活用によって便利になったこと」を話し合うことを通して、情報通信技術の活用における産業の発展と国民生活の向上について具体的に考えることができる。

##### (2) 展開

主な学習場面と子どもの取組	教師の支援と願い・評価
<p>1. 前時を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・posシステムは荷物をどこに届けるか、いつどこにあるのか調べられる仕組みのものだ。</li> <li>・自分たちが大阪に荷物を送ったとき、今、どこにあるのか確認ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポータブルposシステムの仕組みや活用される場面について振り返ることで「誰が使っているか」「どんな情報がわかるか」を想起できるようにする。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">ポータブルposシステムによって「誰が」「どのように」便利になったのだろうか</div>	
<p>2. posシステムの活用による変化について考える。</p> <p>〈依頼人 自分たち〉 「自分の注文通りに荷物を送ってもらえる」 「大切な荷物をちゃんと確実に送ってもらえる」</p> <p>〈受取人 自分たち〉 「荷物が今どこにあるのか調べられるから安心」 「携帯電話でいつでもどこからでも時間指定とか再配達のお願いができるから簡単」</p> <p>〈ヤマト運輸 恒藤さん〉 「posシステムのおかげでお客様から頼まれた荷物を間違えずに確実に届けられる」 「お客様の希望に合わせた時間通りに届けられる」 「配達順路も自動で出せるから、手間が減るし、短時間でより多くの荷物を届けられる」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「誰が」「どのように便利になったのか」と発問し、立場と具体的な仕事やくらしの変化に着目しながら考えることができるようにする。</li> <li>・「posシステムによってできること」を貼っていきながら、「よさ」を考え、書き込むように促す。</li> <li>・イメージしにくい児童には学級に荷物を届けてもらったとき経験や荷物が希望通りに送れたときの経験を振り返ることで「何が便利になったのか」を具体的に考えられるようにする。</li> <li>・「時間帯お届けサービス」や「メール通知サービス」、「配達順路の自動選択」など、なかった頃と比べながら考えるようにすることで便利になったことを具体的に考えられるようにする。</li> </ul>
<p>3. 全体で共有し、情報通信技術を活用する意味について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヤマト運輸も利用者も「確実に」ということが共通して便利になっている。</li> <li>・posシステムの活用によって会社は信用が高まるし、依頼も増えるから利益が上がる。</li> <li>・ヤマト運輸のサービスが向上すると利用者はもっと生活が楽になるし、豊かになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容を立場ごとに分けながら整理して板書することで産業側と利用者側それぞれにとって良さがあることに気付けるようにする。</li> <li>・年間運輸量の増加がわかるグラフや売上量の増加がわかる資料を提示することで、情報通信技術の活用と産業の発展との関連への気付きを深める。</li> </ul>
<p>4. 本時を振り返る。</p> <p>posシステムのおかげでヤマト運輸は「確実に」「より早く」「手間を少なく」荷物を届けることができます。サービスが向上すると会社はもっと利益が上がります。また、私たちは「いつでもどこからでも」サービスを受けられます。posシステムによって会社も私たちも、今までより便利になっていることがわかりました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ポータブルposシステムのおかげで誰がどのように便利になったか」という視点で振り返ることで情報技術の活用のよさを多面的な視点からまとめることができるようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【評価（思考・判断・表現）】</b> ポータブルposシステムの活用によって便利になったことについて話し合うことを通して、情報技術の活用によって利用者のくらしや産業がどのように向上・発展しているかを考えている。 (評価方法：付箋・ノート・発言)</p> </div>